

---

4ever × JANP!!

ピカット

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

4 e v e r x J A N P ! !

### 【Nコード】

N 8 4 4 3 D

### 【作者名】

ピカット

### 【あらすじ】

未来が見えるきっかけをつかんだ三人の男女は、好奇心のうちに未来を覗き込んだ。それが笑って許せるうちはよかったが、そのうち彼らはどうしても未来と邂逅することになる。果たして彼らの運命とは。未来が過去を決めるなら、オレたちは未来の奴隷なのかもしれない。それでも、壊したい未来があるから、少年少女は奮闘する。それが例え避けられない未来なのだとしても。「そんな未来なら、オレがぶっ壊してやる！」男女四人を主軸としたSFタッチの恋愛小説！！

## プロローグ

今日、圭介は夢を見た。

だが、肝心の内容が思い出せない。良かれと思つて買った強力な目覚まし時計が彼の意識を揺さぶっている間、脆い記憶は碎け散り、すっかり形骸化し、今や何かに心地よくて楽しい夢だったことしか記憶に残っていない。

もしかしたらバレンタインデーチョコを貰った夢だったかもしれないし、もしかしたら好きな女の子の水着姿を夢見たのかもしれない。本当のところはもう分からない。きつとどうやっても思い出すことは出来ないだろう。ないものを見つけるのは不可能なのだ。

意識が完全に復旧してからしばらく時間が経つと、次第にこの夢がなんだったのか、という好奇心と、激しい喪失感に見舞われた。

思い出さなくてはならない。かなり大切なことだったような気もするが、いま頭の中を叩き割ってみたところで、有力な情報が得られるかどうか。何度も繰り返し返すが、ないものを探すのは不可能だ。それが夢が夢たる所以であり、夢なのである。

殆ど体に掛かっていないタオルケットを足で蹴り上げると、うだるような夏の暑さが体をすぐさま圧迫した。世界が歪んで見えるほど暑いというわけではないが、湿気を存分に含んでいる外気は決して快適というわけではない。

圭介はすぐに布団をしまい、ワイシャツに着替えた。アイロンをかけたはずなのに妙にしわのよつたワイシャツは圭介の苛立ちを増長させたが、どうしようもない。

そのまま圭介は洗面台へと向かい、短い髪をすすぎ、ドライヤーを引っ張ってきた。

そのとき、鏡に映る圭介の顔は驚くほど緩んでいた。無駄な脂肪が少ない彼の顔は、笑うと頬骨が強調される。他人からすれば特に

気にするほどのコンプレックスには見えませんが、本人は気にしていません。鏡でこの顔を見るたびに、顔が引きつる。これはいつものことだった。妙なことに今日は違った。少しばかり自分の未来を認めてやってもいいような。そんな気がしたのだ。

「今日からは、いいことがあるしそんな気がする」

ドライヤーを操作する圭介の手は彼の想像を超えてスムーズに動いた。まるで自分の手じゃないみたい。ドライヤーを手に持つてしばらくは、この手が余りにも当たり前前に動くので気に留める機会がなかったが、どう見ても確かな異常である。圭介は生まれてこの方、まともにドライヤーで髪をセットなんてしたことがなかったはずだった。ならばなぜ、こんなにも器用にドライヤーを使いこなしているのだろうか。

母親が圭介を呼ぶ声が聞こえた。圭介はもう壊れそうなくらい音をたてるドライヤーを止め、めんどくさそうに返事をした。セットされた髪で食卓に向かい、テーブルの上に置かれたおかずのハムを二枚ほど口に含み、その塩気を口に含んだままトーストをくわえた。ラフな格好で家を出た。

世界が歪んで見えるほど暑いわけではなかった。夏という季節が運ぶ風は決して快適なものではなかった。

今思い出した。

やらねばならないことが、ある。

さっきまでずっと見つめていた、春奈の顔を見て、圭介はそう思った。

「春奈」

「何？」

「覚えてるか？」

「…うん」

1111から、はじまる。

— 4 e v e r x J A N P ! ! ! 《 ふ おー え ばー じ ゃ ん ぶ 》

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8443d/>

---

4ever x JANP!!

2010年10月28日08時28分発行